

かえってきた子供達

「真光寺川を清流にする会」

世話役 山口 拓郎

川面をわたる風はまだ冷たい。私達も冬ごもりを強いられている。このところゴミが目につくようになってきた。開戸親水に自転車・矢崎橋に金庫・下堰親水にスクーター、大型投棄はあとを絶たない。はやく清掃作業がしたい、そんな思いが募る日々である。

うれしい兆しがある。子供達が川へかえってきつつあることだ。新年度からいよいよ「総合学習」が本格化する。川は格好の教材になっているようだ。

「清流の会」の活動は子供達が川にかえってほしいという願いからスタートした。この「流れ」を歓迎したい。

深まる小中学校との交流

2月の記録からひろってみよう。

2月6日

鶴四小に伺い4年生・70名へ真光寺川について話をさせてもらう。最も多い質問は「なまず」についてだった。

2月15日

鶴三小・横山先生から電話。

「6年生が卒業記念に真光寺川のマップを作りたいとついでにっている」

2月17日

真光寺中学・清水先生からお手紙。

「先般の同行してもらった実習は壁新聞にまとめつつあります」

2月21日(予定)

鶴三小・6年生 真光寺川実習のまとめとして、テーマ別に8班に分かれて学習する計画。「清流会」8名参加予定。

2月26日(予定)

忠生七小・4年生のクラス。

「真光寺川について」話をさせてもらう。

以上のように小中学校とのかかわりが多くなってきた。喜ばしいことである。

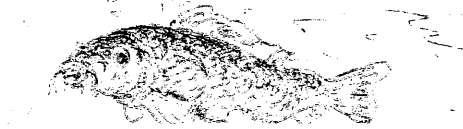
源流探検

2月の清流会例会も子供達の意向で思い出深いものとなった。水が冷たくて清掃作業は無理だった。マップ作成の材料収集をかねて下流から上流へ歩く予定をたてた。



鶴三小の横山先生から電話があった。

「子供達が是非源流へ行ってみたいといっています」上流は竜が翼を広げたように分かれ源流は5ヶ所ある。「折角だから最も源流らしい場所に案内しよう」会員と幾度も電話でやりとりする。万全を期し前日笠井さんに下見をしてもらう。当日は生憎く悪天候だった。鉛色の雲が低く垂れこめていた。9時30分、元気な小学生を交え30余名開戸親水に勢揃い源流を目指して出発した。飯守神社を過ぎる辺りから雪が舞い始めた。源流地帯に入り道は途絶え林を掻き分けながら進む。そして遂に源流に到達！落ち葉に覆われた湿地帯を踏み締め子供達の顔が輝いていた。



よみがえる春にむけて

下堰親水のひだまりに鴨達が群れている。春の訪れも遠くはなさそうだ。

「広袴親水公園」「せせらぎの小径」は工事が急ピッチで進められている。完成も間近らしい。

周辺の小・中学生との交流が進展しそうな予感がする。子供達はみんな川が好きなのだ。子供達と接していてそう実感する。真光寺川を通じ交流の輪が広がったらどんなにか素晴らしいことだろう。

- ・子供達の声のこだまする川にしたい
 - ・子供達と「真光寺川祭り」をしたい
 - ・子供達と「クリーン作戦」をしたい
- 次々と夢がふくらんでくる。

水が温み清掃作業ができる日ももうそこまでできているようだ。

